

冬でも温か、湧水はすごい！

太田 慶子（千葉市）

日時：2010年1月17日）10：30～12：00

天候：快晴 気温：9℃（最低気温0℃）

参加者：26人（大人21名、子ども5名）

担当指導員：太田慶子・弦巻滋子

思いっきり冷え込んだ朝で、田んぼには氷が張り、霜柱のオンパレード。例年になく寒い冬であり、テーマは後回しにして、参加者にまず、普段街中で暮らしてはなかなか見られない「氷と霜柱の世界」に触れてもらおうと思い、すぐに谷津田に降り、田んぼに張った氷や霜柱に触れてもらった。子ども達はすぐ氷をさわって、年配の方は「昔は張った氷の上を歩いたけど…」と懐かしそうだった。

北風の来ない林縁の陽だまりで、湧水の仕組みについて話す。

湧水の条件は3つ

1. 雨水がしみ込む場所があること
2. しみ込んだ水が地下水となって流れていること
3. 地下水の出口があること

つまり、①アスファルトなどで地表が覆われていると雨水がしみ込まなくなる

②土壌には水を通しにくい層（難透水層：粘度やシルト層）があり、その上の透水層である砂層（土の粒子が大きいので隙間を水が流れる）が水の道となり、水は低い方に向かって流れる

③その流れに出口がないと枯れてしまうことにもなる

大草には湧水と、更に深いところにある地下水（被圧水）から自噴する水（自噴井）がある。

*自噴井については後でバケツを用意してもらって調べたら、18ℓ/分の量があった。

*こうした説明は言葉だけではわかりにくいので、絵に描いたもので解説した。

湧水＝きれいな水、というイメージがあるが、土が活性炭のように働いて有機物（養分）を濾すから。ただし分子量の小さいミネラル分は残る。つまり湧水というのは、養分の少ない無機質な水ともいえる。（冷蔵庫の脱臭剤として使われている活性炭を見せる）。

実際に＜しみ出し水と自噴井、近くの田んぼの水A、B＞などを採取、水温を計ってもらった。それぞれ、＜15℃、15℃、4℃、3℃＞、更に広場にある井戸の水温は地表近くで6・5℃、水をしばらく出していると9℃、だった。テーマ通り、土壌の中を時間をかけて濾された湧水は外環境の影響を受けにくく、冬は温か！

まだ時間があったので、下ノ畑でノウサギの糞を探してもらった。草食性のノウサギの糞はとってもきれいで、乾くと軽い。参加者は最初汚そう… という感じだったが、匂いもしないし、きれいみたい… と触れる方もいた。

参加者の中には湧水に関心を持って参加された方もいて、勉強になったとか、これから大草で湧水について調べていきたいと言われた。遠くに自然を探して出かけるが、身近にこんな自然豊なところがあった、というのはあるお母さんの感想。

